

NEWSLETTER RIEMAM

2012年 6 月号

No.161

日本環境管理学会 会報

目次

< 1 頁 > 平成24年度日本環境管理学会大会報告／研究助成案内 < 2 頁 > 平成23年度事業報告・収支決算書
< 3 頁 > 平成24年度事業計画・収支予算書 < 4 頁 > 大会報告／記念講演「利用の構想力の時代へ」(概要)

平成24年度 日本環境管理学会大会報告

通常総会 久保猛志会長を再任



久保猛志会長

本学会は5月25・26日の両日、東京都江戸川区の総合区民ホール(タワーホール船堀)にて平成24年度大会を開催しましたので報告します。

大会は初日午前に通常総会、初日午後から2日目にかけて第25回研究発表会が行われました。通常総会では平成23年度の事業報告・収支決算報告・監査報告と、24年度の事業計画案・収支予算案が審議され、いずれも原案どおり承認されました。昨年度は東日本大震災の影響で会費収入が大きく減り、収支はマイナスを計上しました(2頁参照)。これを踏まえて、今年度は目標ベースから実績ベースの予算組みとし、現在の会費納入状況から昨年実績を少し上回る程度の予算が組まれることになりました(3頁参照)。

本総会では役員改選も行われ、久保猛志会長と村松學・古橋秀夫の両監事が再任され、石塚義高専務理事と堀口弘事務局長の留任も決まりました。再任にあたって久保会長はこの間の“低空飛行”を詫びながら、「今年は少しでも学会活動が活発になるよう、事業を拡大していきたい」と抱負を述べました。



研究発表会 研究23題と現場報告3題

引き続き、初日午後から第25回研究発表会が行われました。今年の研究発表会は例年同様、幅広い分野から23研究課題とビルメンテナンス現場からの3事例の報告がありました。

住宅性能や空調システムなど「建築環境管理」に関するセッションを皮切りに、「屋外環境」「清掃」の各セッションに分かれて発表が行われ、2日目は朝9時から「東日本大震災」「維持管理・研究委員会報告」「世界人口」「病院の維持管理」「GNH・廃棄物処理」と続けました。また、初日夕方、特別セッションとして東京大学大学院教授の松村秀一先生を講師に招き、「既存建築ストックの再生の現状と今後の課題・<利用の構想力>の時代へ」と題する講演が行われました。(4頁へ)

ビルメンテナンスに関する 研究助成のご案内

公益社団法人全国ビルメンテナンス協会では、ビルメンテナンスの研究・技術を促進するため、助成事業を設けています。下記要領で研究テーマを募集いたしますので、奮ってご応募ください。

1. 助成対象

ビルメンテナンスに係る分野の研究

2. 助成対象者及び研究助成金

① 若手研究	1件あたり50万円以内
30歳以下の国内の大学等に所属する大学生・大学院生	
② 一般研究	1件あたり100万円以内
国内の大学もしくは研究所等の非営利研究機関に所属する個人またはグループ	

3. 助成・研究期間

平成24年12月～平成25年12月

4. 研究対象者の主な義務

①研究期間終了後に報告書・経理報告書等を提出すること

②中間報告及び終了報告を、日本環境管理学会大会において発表すること

③学術団体が発行する論文誌に、研究成果を論文として投稿すること

5. 応募

平成24年6月1日～9月30日までに、研究助成申請書及び研究計画書を提出すること

※応募方法は(公社)全国ビルメンテナンス協会のホームページ(<http://www.j-bma.or.jp/>)でご確認ください。

6. 採否の決定

委員会で審査し、11月に採否を通知します。

【問い合わせ先】(公社)全国ビルメンテナンス協会
事業部事業企画課 担当: 下平智子 TEL: 03-3805-7560

平成23年度事業報告

1. 平成23年度通常総会 日時 平成23年5月20日 場所 江戸川区総合区民ホール会議室 議案 平成22年度事業報告・収支決算報告／同監査報告／平成23年度事業計画・収支予算／その他	記念講演「ライフサイクルC02による建築物等評価手法の現状と今後の課題」岡建雄氏（宇都宮大学大学院教授）	5. 出版等事業（学術委員会・論文審査小委員会・事業委員会・ニューズレター小委員会） (1) 会誌『環境の管理』第72号～第73号 (2) 「NEWSLETTER」第157号～第159号 (3) Web版ニューズレターの更新 (4) ホームページの更新 (5) 日本環境管理学会大会2011 学術講演梗概集－第24回研究発表会－
2. 会合 (1) 理事会 1回 日時 平成23年5月20日 (2) 学会運営関係委員会 1) 運営委員会 1回 2) 学術委員会 10回 3) 総務委員会 11回（事業委員会と合同） 4) 事業委員会 21回 （総務との合同委員会 11回を含む）	4. 研究活動 (1) 研究小委員会（学術委員会） 1) 論文審査小委員会4回（通信委員会を含む） 2) 現場のための室内環境評価と測定研究小委員会10回 3) 建築・設備の不完全性（べからず）事例研究小委員会7回 (2) 受託研究活動（ビルメン戦略研究委員会・総務委員会・事業委員会） 委託元：（公社）全国ビルメンテナンス協会 平成23年度課題 1) ビルメンテナンス・グランドデザインに関する研究（継続課題） 2) 「ビルメンテナンスと建物長寿命化の関連性に関する研究」（個別課題） 3) 「ビルメンテナンスの契約実態の分析と契約のあり方に関する研究」（個別課題）	6. 他団体等への協力事業（総務委員会・事業委員会） (1) 全国ビルメンテナンス協会 ①ビルメンテナンス研究発表表彰選考委員会への委員派遣 ②ビルメンテナンス研究助成選考委員会への委員派遣 (2) BM情報ランドへの参画・促進 (3) 協賛・後援：ビル管理教育センター「第39回建築物環境衛生管理全国大会」／全国ビルメンテナンス協会「第5回ビルメンこども絵画コンクール」
3. 研究発表会（学術委員会） 第24回研究発表会 日時 平成23年5月20日～21日 場所 江戸川区総合区民ホール会議室 論文等 研究発表会29題		

<収入の部>

平成24年3月31日現在（単位：円）

勘定科目	平成23年度決算額	平成23年度予算額	増▲減	摘要
入会金収入	8,000	22,000	▲14,000	
入会金収入	8,000	22,000	▲14,000	個人会員4名入会
会費収入	1,136,000	1,942,000	▲806,000	
個人会員収入	336,000	632,000	▲296,000	個人正会員＋学生会員
法人会員収入	800,000	1,310,000	▲510,000	法人正会員＋特別会員
事業収入	335,060	600,000	▲264,754	
大会等収入	316,000	300,000	16,000	研究発表会、講演会等
その他事業収入	19,060	300,000	▲280,940	書籍販売等
受託事業収入	3,000,000	3,000,000	0	
委託研究費	1,500,000	1,500,000	0	全国ビルメンテナンス協会より
研究助成収入	1,500,000	1,500,000	0	同上
貸室料立替金収入	600,000	600,000	0	全国ビルメンテナンス政治連盟より
雑収入	659	50,000	▲49,341	
受取利息	659	0	659	
雑収入	0	50,000	▲50,000	
当期収入合計	5,079,719	6,214,000	▲1,134,281	
前期繰越金	7,855,179	7,855,179	0	
計	12,934,898	14,069,179	▲1,134,281	

<支出の部>

（単位：円）

勘定科目	平成23年度決算額	平成23年度予算額	増▲減	摘要
事業費	1,977,596	2,615,000	▲637,404	
研究費	328,835	840,000	▲511,165	研究小委員会、図書費等
印刷編集費	795,060	920,000	▲124,940	会誌、ニューズレター等制作費
通信運搬費	171,499	180,000	▲8,501	電話料、会誌送料等
原稿料	41,440	50,000	▲8,560	
講師謝金	33,333	50,000	▲16,667	
大会等開催費	447,425	450,000	▲2,575	総会、理事会、研究発表会開催費
器具備品費	160,004	110,000	50,004	コピーリース代等
渉外費	0	15,000	▲15,000	
管理費	3,627,482	3,599,000	28,482	
給料手当	299,600	210,000	89,600	
旅費交通費	46,380	60,000	▲13,620	職員交通費
会議費	28,520	20,000	8,520	運営委員会等開催費
水道光熱費	124,442	120,000	4,442	
消耗備品費	26,151	52,000	▲25,849	
顧問料	556,500	557,000	▲500	
借室料	2,530,644	2,550,000	▲19,356	貸室料立替金支出を含む
雑費	15,245	30,000	▲14,755	振込手数料、保険料
当期支出合計	5,605,078	6,214,000	▲608,922	
当期収支差額	▲525,359	0	▲525,359	
次期繰越金	7,329,820	7,855,179	▲525,359	
計	12,934,898	14,069,179	▲1,134,281	

平成23年度収支決算書

（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

1. 平成24年度通常総会 日時 平成24年5月25日(金)11:00～ 場所 江戸川区総合区民ホール会議室 2. 会合 (1) 理事会 1回 (2) 運営委員会 2回 (3) 学術委員会 10回 (4) 総務委員会 10回 (5) 事業委員会(ニューズレター小委員会) 12回 (6) 調査研究小委員会等 随時 3. 研究発表会(学術委員会) (1) 第25回研究発表会 日時:平成24年5月25・26日 場所:江戸川区総合区民ホール会議室 4. 研究活動 (1) 研究小委員会(学術委員会) 1) 論文審査小委員会(通信委員会を含む) 2) 現場のための室内環境評価と測定研究小委員会 ・室内環境評価システム・簡易版」項目の精査 ・オフィスビル以外の建物用途への活用に関する検証 3) 建築・設備の不完全性事例研究小委員会 べからず事例書籍発刊 4) プロパティマネジメント研究委員会 5) その他(1～2研究小委員会) (2) 受託研究活動(ビルメン戦略研究委員会・総務委員会・事業委員会) 委託元:全国ビルメンテナンス協会 委託研究課題「ビルメンテナンス・ランドデザインに関する研究」 (平成23年度課題を継続し、以下の課題の研究を進める。) 1) 「ビルメンテナンス業に係る現状の認識と将来への展望や夢」の集計・分析と報告書の作成 2) 「ビルメンテナンスと建物長寿命化の関連性に関する研究」(個別課題) 3) 「ビルメンテナンスの契約実態の分析と契約のあり方に関する研究」(個別課題) 4) 「情報ネットワークにおけるビルメンテナンス・データの活用に関する研究」(継続課題)	5. 講演会・見学会等(事業委員会、学術委員会) (1) 講演会・見学会 1～2回開催予定 6. 出版事業(学術委員会、論文審査小委員会、事業委員会、ニューズレター小委員会) (1) 会誌『環境の管理』第74号～第76号 (2) 日本環境管理学会大会2012 学術講演梗概集-第25回研究発表会- (3) 「NEWSLETTER」第160号～第162号(別途Web版ニューズレター6号) 7. 他団体等への協力事業(総務委員会、事業委員会) (1) 全国ビルメンテナンス協会への委員派遣 ①研究助成選考委員会 ②研究発表表彰選考委員会 (2) 建築物管理訓練センターからの課題委託 (3) BM情報ランドへの参画・促進 (4) 協賛・後援 ①ビル管理教育センター 「第40回建築物環境衛生管理全国大会」 ②全国ビルメンテナンス協会「第6回ビルメンこども絵画コンクール」
--	--

<収入の部>

(単位:円)

勘定科目	平成24年度予算額	平成23年度予算額	増▲減	摘要
入会金収入	6,000	22,000	▲16,000	
入会金収入	6,000	22,000	▲16,000	個人会員3名
会費収入	1,441,000	1,942,000	▲501,000	
個人会員収入	481,000	632,000	▲151,000	個人正会員+学生会員
法人会員収入	960,000	1,310,000	▲350,000	法人正会員+特別会員
事業収入	587,000	600,000	▲13,000	
大会等収入	287,000	300,000	▲13,000	研究発表会、講演会等
その他事業収入	300,000	300,000	0	書籍販売等、訓練センター委託
受託事業収入	3,000,000	3,000,000	0	
委託研究費	1,500,000	1,500,000	0	全国ビルメンテナンス協会より
研究助成収入	1,500,000	1,500,000	0	同上
貸室料立替金収入	600,000	600,000	0	全国ビルメンテナンス政治連盟より
雑収入	50,000	50,000	0	
受取利息	0	0	0	
雑収入	50,000	50,000	0	
当期収入合計	5,684,000	6,214,000	▲530,000	
前期繰越金	7,329,820	7,855,179	▲525,359	
計	13,013,820	14,069,179	▲1,055,359	

<支出の部>

(単位:円)

勘定科目	平成24年度予算額	平成23年度予算額	増▲減	摘要
事業費	2,405,000	2,615,000	▲210,000	
研究費	700,000	840,000	▲140,000	研究小委員会、図書費等
印刷編集費	850,000	920,000	▲70,000	会誌、ニューズレター等制作費
通信運搬費	180,000	180,000	0	電話料、会誌送料等
原稿料	50,000	50,000	0	
講師謝金	50,000	50,000	0	
大会等開催費	450,000	450,000	0	総会、理事会、研究発表会開催費
器具備品費	110,000	110,000	0	コピーリース代等
渉外費	15,000	15,000	0	
管理費	3,500,000	3,599,000	▲99,000	
給料手当	175,000	210,000	▲35,000	
旅費交通費	40,000	60,000	▲20,000	
会議費	20,000	20,000	0	運営委員会等開催費
水道光熱費	100,000	120,000	▲20,000	
消耗備品費	28,000	52,000	▲24,000	
顧問料	557,000	557,000	0	
借室料	2,550,000	2,550,000	0	貸室料立替金支出を含む
雑費	30,000	30,000	0	振込手数料
当期支出合計	5,905,000	6,214,000	▲309,000	
当期収支差額	▲221,000	0	▲221,000	
次期繰越金	7,108,820	7,855,179	▲746,359	
計	13,013,820	14,069,179	▲1,055,359	

研究発表会

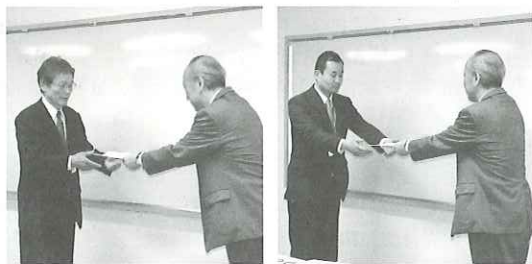
北海道 静岡県

金子氏と平岡氏に優秀発表賞

現場の方々からも積極的に発表をしてもらおうと始まった「ビルメンテナンスの現場から」は今年で5回目となりました。今回は栃木県から栃大高商事の伊原修氏「室内の空気環境の改善法とその効果」、北海道から北海道クリーン・システム(株)の金子勉氏「ワックス剥離廃液処理装置の開発」、静岡県から㈱セイセイサーバーの平岡千秋氏「ホテル清掃における作業効率と品質レベルの向上」がそれぞれ発表されました。

優れた発表に贈られる優秀発表賞は、審査の結果、金子氏と平岡氏に授与されました。金子氏は3年前にもこの場で発表を行い、「その後の進展を報告すること」という条件付きで優秀発表賞を受賞。その約束を果たした形となりました。伊原氏の発表は、まだ現場での活用実績と殺菌効果の検証が不足していることから見送られることになりました。

研究発表の中には、(公社)全国ビルメンテナンス協会の助成研究の最終報告も行われ、須藤美音氏(名古屋工業大学)



優秀発表賞の表彰式、左が金子勉氏、右が平岡千秋氏

「病院施設における維持管理特性に関する研究」、深澤朋美氏(東京工業大学)「屋外の維持管理における居住者とメンテナンス実施者とのコミュニケーションツールの開発」(以上、一般部門)、近藤貴道氏(広島工業大学)「商業施設における顧客評価による清掃品質管理手法に関する研究」(若手部門)の3課題の研究成果も披露されました。

また、本学会の「建築と設備の不完全性事例研究小委員会」から、収集した事例をもとにオーム社より書籍化されることも併せて報告されました。

記念講演■既存建築ストックの再生の現状と今後の課題

「利用の構想力」の時代へ (概要)

【講師】松村秀一氏(東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授)

今から6~7年前、自民党は「200年住宅」というものを検討していた。部会に招かれて、建物を長寿命化しようという政策はナンセンスだと申し上げたことがある。日本には住宅が6千万戸あるが、その半数以上は十分な質を持っている。日本の住宅が粗悪だという人もいない。今後課題にすべきは、長持ちする住宅を造るのではなく、長く有効に利用し続けられるよう産業と技術を方向付けることではないかと。

仮に資源を投入して200年持つ建物を造れば、200年使わないと元が取れない。それが30年で取り壊されればそのほうが環境に悪いことになり過剰投資となる。しかも200年持たせるとしたら、法律、建築技術、経済状況、ライフスタイル、気象条件などが変わらないことが前提となるはずだ。

私見では、これから建物は長く持たせざるをえない時代に入ってくる。今後日本は、高齢化し、人口も世帯数も減り、経済成長もない時代になる。事実、全国で空き家が700万戸もあり大きな問題となっている。床は余り、容積率を増やして建て替える必要もない。そのときに、人や街はおそらく強いアイデンティティを求めるようになってくるはずだ。

2009年にイタリアのラクイラという都市で震災があった。1年後に訪れてみると、あちこちに被害を受けたまま工事が進んでいない建物があった。日本では考えられないことだ。日本の場合、土地と建物は別々の財とみなされ、土地は永久、建物は仮のものという考え方が定着している。諸外国では土地と建物は一体なものとみなされる。たとえ地震で建物が傷ついても、それを簡単に建て替えたならその街のアイデンティティが失われてしまうことになってしまうのだ。

日本では、3.11の震災復興で、アイデンティティを維持したまま、どのような空間的環境を造り維持するか、難しい局面を迎えることだろう。日本はこうしたアイデンティティの問題だけでなく、客観的情勢として建て替えられなくなる時代を迎える。そのとき利用者にとっても産業にとっても重要になるのが「利用の構想力」だ。

建設投資はピーク時の約半分に、産業は大きく変わらざるをえないが、そのために最も必要なことは「新しい血」だ。それはすなわち、生活者・利用者だろう。利用者の構想力をうまく引き出して、それにファイナンスをつけていく。その仕組みをプロが考えていく。例えばすでにニューヨークはじめ世界中の都市では、都心部の空いているオフィスを住宅に変えるコンバージョンが盛んだ。町でやりたい活動が、利用者や生活者の中にあり、それが顕在化して技術や産業と結び付く。ようやく日本でも、こうした例が起り始めている。専門家がやるべきことは、余剰空間と利用者との間に何らかの機能を入れて結び付けること。必要な機能は2つしかなく、一つは余剰空間の利用価値を見出す機能、それと利用に合わせてどう設えるかの機能だ。これによって、これからの新しい産業が形成されていくのではない。

産業も大転換は必要だが、それは一筋縄でいくものではない。一気に転換はできない。私が一番重要だと思うのは、認識のしかたを変えること。「箱」の産業から「場」の産業へと、大学も変わっていかなければならない。



NEWSLETTER RIEMAM

2012年6月号 第161号

発行=日本環境管理学会

(Research Institute of Environmental Management, Administration and Maintenance of JAPAN)

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-23-8 KSビル3階

TEL: 03-3802-7050 FAX: 03-3802-7051

ホームページ: <http://www.riemam.org> Eメール: info@riemam.org